

野間仁根 館蔵品展

第二の故郷 外房州



野間仁根《房州大海》制作年不詳

2022. 7. 16 (土) ~ 2022. 11. 27 (日)

野間仁根  バラのミュージアム (今治市吉海郷土文化センター)

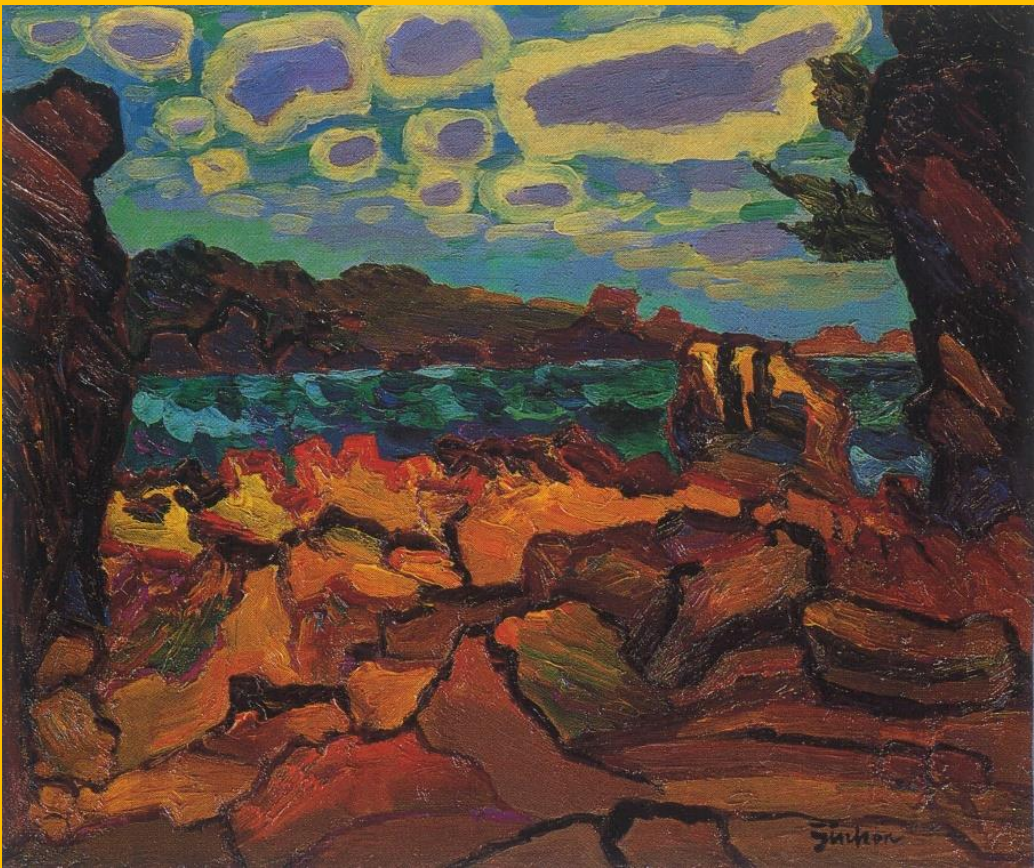
開館時間 / 9:00~17:00 (入場は16:30まで)
休館日 / 月曜日 (祝日の場合は直近の平日)

〒794-2103 愛媛県今治市吉海町福田1290番地
TEL/FAX (0897) 84-2566

入館料 / 一般310円・学生160円
高校生以下または18歳未満無料
※大人団体 (20名以上) 250円
※65歳以上の方250円
※障害者手帳をお持ちの方及びその介助者1名は無料



↑ 野間仁根バラのミュージアムHP



野間仁根《早春の岩磯》制作年不詳



野間仁根《海邊の草の實》1940年

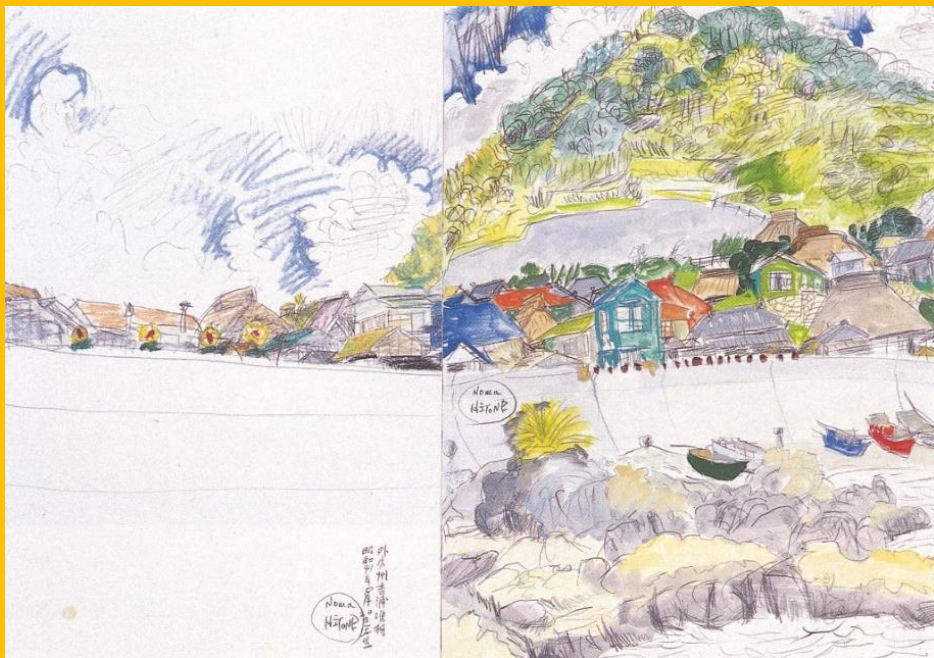
野間仁根が外房州(千葉県南部、太平洋に面した海岸地方)の海岸風景を描いた作品を展示いたします。仁根は、越智郡津倉村(現今治市吉海町)出身で、穏やかな瀬戸内の海に囲まれて育ちました。画家として東京を拠点に活躍しましたが、仁根は故郷の海を愛し、その風景を多くの作品として残しています。それと同様に、外房州の海の作品も多く描いています。外房州にたびたび出掛けては、写生と趣味の釣りを楽しみました。その様子は著書『呑馬先生釣日記』に記されており、故郷の海とは違った顔を持つ外房州の海を「第二の故郷」として親しみをもっていたことがわかります。仁根が愛した外房州の風景をお楽しみください。



の ま ひ と ね 野間 仁根 (1901 - 1979)



野間仁根《外房州吉浦》1966年



野間仁根《外房州吉浦漁村》1966年

- | | |
|-------|---|
| 1901年 | 2月5日越智郡津倉村(現今治市吉海町福田)に生まれる。 |
| 1919年 | 伯父を頼り、母と上京。 |
| 1920年 | 川端画学校で学び、東京美術学校(現東京芸術大学)に入学。 |
| 1924年 | 第11回二科展で「ランプのある静物」が初入選。 |
| 1925年 | 東京美術学校を卒業。 |
| 1928年 | 第15回二科展で「夜の床」が樗牛賞受賞。 |
| 1929年 | 第16回二科展で「ぜ・ふうるむうん」が二科賞受賞。 |
| 1931年 | 佐藤春夫作「むさしの少女」に挿絵を描く。 |
| 1932年 | 津倉村に於いて志那と結婚。 |
| 1933年 | 二科会会員に推挙される。 |
| 1944年 | 郷里(津倉村)に疎開。軍の命令で二科会解散。 |
| 1945年 | 二科会が再建され、入会。 |
| 1955年 | 二科会脱退。同年、鈴木信太郎らと一陽会を結成。その後、個展や小規模なグループ展を開催。 |
| 1979年 | 12月30日、78歳で逝去。吉海町の福蔵寺に眠る。 |

アクセス

愛媛県側から

- | | |
|-------|--|
| [自動車] | しまなみ海道大島南ICから約10分 |
| [バ ス] | 松山市駅／今治駅より大三島行き高速バスにて「吉海支所」下車、バス停より徒歩15分 |

広島県側から

- | | |
|-------|---|
| [自動車] | しまなみ海道大島北ICから約10分 |
| [バ ス] | 広島バスセンター／福山駅前よりしまなみライナーにて大島BS下車、島内路線バスに乗換、幸(さいわい)」下車、バス停より徒歩10分 |

